

Photographic Society of

Zone System

ゾーンシステム研究会会報

発行日：2023.11.15

発行者：中島 秀雄

事務局：畑 文夫

編集部：浜野 次郎 葛城 忠彦

No.75

CONTENTS

- ・ ゾーンシステム研究会第26回写真展を振り返る
- ・ 第26回写真展への出展にあたり 中井陽一郎
- ・ ゾーンシステムとの出会い 村岡純一
- ・ 私の写真について 小菅秀一
- ・ APEXシステムについて 畑 文夫
- ・ ミニワークショップに参加してみて 若子敏規
- ・ ゾーンシステム確認講座に参加して 岩田伸一
- ・ 2023年度の活動記録



光への探求 ゾーンシステム研究会 第26回写真展 出品目録

■2022年11月16日(水)~27日(日)
21日(月)・22日(火) 休廊
■ギャラリーイー・エム 西麻布

Photographic Society of
Zone System



タイトル
・作者
・撮影地
・フォーマット
・フィルム(実効感度)
・レンズ
・シャッター 絞り
・備考



ウクライナの歌姫
・中島秀雄
・出縄彫刻公園(平塚)
・6×6
・T-MAX 400
・80mm
・1/30秒 f11
・ドレス ZONEVIII



薔薇とヴィーナス
・中島秀雄
・ハーブ園(山梨)
・4×5
・HP5+
・125mm
・1秒 f45_1/3



Snow courtyard
・川北 弘
・北八ヶ岳
・4×5
・TRI-X 320
・150mm
・1/15秒 f64



枯葉
・小菅秀一
・福島県昭和村
・4×5
・DELTA100
・360mm
・1/2秒 f22_1/2



Melting snow
・畑 文夫
・笹ヶ峰高原(妙高)
・4×5
・ACROS
・180mm
・1/15秒 f45
・実効感度 EI80
ILFORD WT



早春の大正池
・大内 元
・上高地
・4×5
・TRI-X 320
・210mm(SC56 オレンジ)
・1/8秒 f45_1/3



冬韻
・橘田 功
・裏磐梯
・4×5
・T-MAX 400
・180mm
・1/15秒 f45
・ILFORD WT



Ashio

- ・小菅秀一
- ・栃木県日光市
- ・4×5
- ・FP4+
- ・90mm
- ・1/2 秒 f32_1/2



Early morning

- ・川北 弘
- ・茨城県ひたちなか市
- ・6×6
- ・DELTA 100
- ・38mm
- ・1/8 秒 f 22



カラマツ樹林

- ・宮内廣仁
- ・開田高原（長野）
- ・4×5
- ・ポラロイド Type55
- ・150mm



冬枯れの情景

- ・中島秀雄
- ・八ヶ岳山麓
- ・4×5
- ・HP5+
- ・180mm
- ・1 秒 f 45
- ・N+5%



Fresh verdure

- ・畑 文夫
- ・井の頭公園
- ・4×5
- ・HP5+
- ・300mm（グリーン）
- ・1 秒 f 45
- ・実効感度 EI250 ILFORD WT



葉の無い白木

- ・鈴木武志
- ・舎人公園（東京）
- ・4×5
- ・T-MAX 400
- ・150mm
- ・1/4 秒 f 22
- ・ILFORD MGFB



椰子の鎧

- ・藤田 昇
- ・柏崎市
- ・4×5
- ・T-MAX 100
- ・210mm
- ・1/4 秒 f 45_1/3
- ・ニューシーガルVC-F B III



リーフ

- ・村岡純一
- ・自宅（川崎市）
- ・4×5
- ・HP5+
- ・120mm
- ・1 秒 f 45



ひまわり

- ・金子正道
- ・千葉県
- ・6×6
- ・FP4+
- ・80mm
- ・1/2 秒 f 22
- ・イーグル



Lion's Tail Agave

- ・白井健司
- ・つくば市
- ・4×5
- ・T-MAX 400
- ・150mm
- ・3 秒 f 45_2/3



菜園

- ・石井康子
- ・自宅（東京）
- ・4×5
- ・FP4+
- ・150mm
- ・1/8秒 f 64



双頭橋

- ・石井政吉
- ・築地
- ・4×5
- ・HP5+
- ・210mm
- ・1/4秒 f 45



Jin' s House

- ・久保重成
- ・八ヶ岳高原ヒュッテ
- ・4×5
- ・HP5+
- ・90mm
- ・1/15秒 f 45
- ・実効感度 EI200
- ILFORD MGFB1K CLASSIC



Millennium Park

- ・浜野次郎
- ・シカゴ
- ・6×9
- ・HP5+
- ・90mm
- ・1/60秒 f 16_1/2
- ・ニューシーガル VC-FB III



Glass Forest

- ・鈴木知之
- ・銀座
- ・6×7
- ・ACROS II
- ・65mm
- ・1/4秒 f32
- ・ニューシーガル VC-FB III



Research Facility

- ・久保重成
- ・国立天文台野辺山宇宙観測所
- ・4×5
- ・HP5+
- ・150mm
- ・1/15秒 f 32_2/3
- ・実効感度 EI200
- ILFORD MGFB1K CLASSIC



秋日

- ・橘田 功
- ・チェコ プラハ郊外
- ・6×7
- ・T-MAX 400
- ・80mm
- ・1/60秒 f 16
- ・ILFORD WT



fabrique de vin

- ・葛城忠彦
- ・山梨県
- ・4×5
- ・HP5+
- ・120mm
- ・1/2秒 f 45
- ・イーグル VCFB



A Father & Two Rebellious Daughters

- ・葛城忠彦
- ・山梨県
- ・4×5
- ・HP5+
- ・120mm
- ・1/2秒 f 45
- ・イーグル VCFB



ペルシャ壺

- ・宮内廣仁
- ・勝沼（山梨）
- ・6×6
- ・TRI-X
- ・80mm



選択の扉
 ・中井陽一郎
 ・茨城県龍ヶ崎市
 ・4×5
 ・TRI-X 320
 ・150mm
 ・1/8 秒 f 32_1/3



Dry Garden
 ・鈴木知之
 ・青山
 ・6×6
 ・ACROS II
 ・75mm
 ・1/2 秒 f 22
 ・ニューシーガル VC-FB III

風景への欲望

ゾーンシステム研究会は、今年 26 回目の展覧会となる。
 これまでに発表した私たちの写真は、どちらかといえば風景写真が中心となっている。

私たちはなぜ風景に惹かれるのか。

日常の見慣れた生け垣や街並みを眺めても、不思議とは思わない。しかし、知らない街に出かけたときなぜか高揚感を覚える、あるいは車に乗って川を渡った瞬間に見た水の流れにイメージを喚起されることもある。

郷愁を感じるのか、見たことで安心を得たいと思うのか、それとも私たちを誘うような風景はどこかにその原景があり、それを追いかけて所有したいと思うのかもしれない。

写真雑誌や絵葉書に見る風景写真は、人々に共通する美の基準によって撮られている。私たちはできれば人目につかず、一見美しくも珍しくもない風景にカメラを向け、そこに作例などには見られない美を見つけるように努力してきたが、それは決して簡単なことではない。特に日本の風景は湿気を含み不規則で、折り重なり、枝ぶりがレンズに絡むことも多く、風景は私たちに自らの美しさを隠そうとしているように感じることもある。

私たちは中判から大判のカメラを長く使い続けてきた。今日においても銀塩写真制作にはこうした機材が最も適していると思っている。なぜなら日本の湿潤で不連続な情景、込み入った風景の中においても中・大判カメラには確実に“美”を見つけ出す力が備わっているからだ。

私たちは、これからも風景にカメラを向けていくことになるだろう。

ゾーンシステム研究会・代表 中島秀雄

■新会員募集

- ・「ゾーンシステム研究会」は中判・大判カメラによるモノクロームプリントの制作を目的とするグループです。
- ・「月例会」の見学が随時可能です。
 開催日時 毎月第2土曜日 14時～17時
 開催場所 文京シビックセンター会議室他
 ※ 作品（六つ切り程度のモノクロームプリント）がありましたらお持ち下さい
 ※ 日程と会場は変更になることがありますので、ご希望の方は事前にお問合せください。

◎ 事務局 畑 文夫
 e-mail admin@zonesystem.toyo

ゾーンシステム研究会 ホームページ →








jiro hamano
tomyoyuki suzuki
hideo nakajima
junichi muraoka

光への探求

銀塩写真の魅力

大型カメラは、ネガが大きく、レンズやフィルム面の位置を完全に制御できること、また、ネガを個別に処理できることなど多くの利点がある。ザ・カメラより アンセル・アダムス

代表 **中島秀雄**

石井政吉	石井康子	白井健司
大内 元	葛城忠彦	金子正道
川北 弘	橘田 功	久保重成
小菅秀一	鈴木武志	鈴木知之
中井陽一郎	畑 文夫	浜野次郎
藤田 昇	宮内廣仁	村岡純一



tadahiko katsuragi

2022年11月16日(水)~27日(日) 12:00~18:00
21日(月)・22日(火) 休廊
ギャラリーイーエム 西麻布

ゾーンシステム研究会 第26回写真展

PHOTOGRAPHY EXHIBITION



ゾーンシステム研究会

料金別納郵便

POST CARD

光への探求

ゾーンシステム研究会 第26回写真展

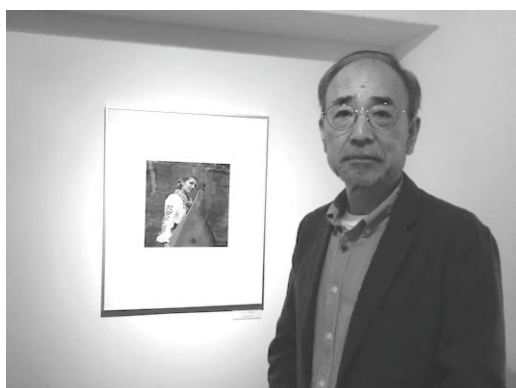
2022年11月16日(水)~11月27日(日)
12時~18時 21日(月)・22日(火) 休廊



ギャラリーイーエム 西麻布 〒106-0031 東京都港区西麻布4-17-10
 gallery **E₂M** nishiazabu TEL03-3407-5075 FAX03-3407-5180
http://www.takeuchi-studio.jp/gallery_em

* P.2-5の作品目録は会員の橘田功さんによるもので、掲載は展示順となっています。

-6-



中島代表

*いずれも展覧会場でのスナップ。
藤田昇さん、石井康子さん、金子正道
さんの御三方はこの日会場にお見えで
なかったため、残念ながらお顔を撮る
ことができませんでした。



葛城忠彦さん



久保重成さん



橘田 功さん



宮内廣仁さん



中井陽一郎さん



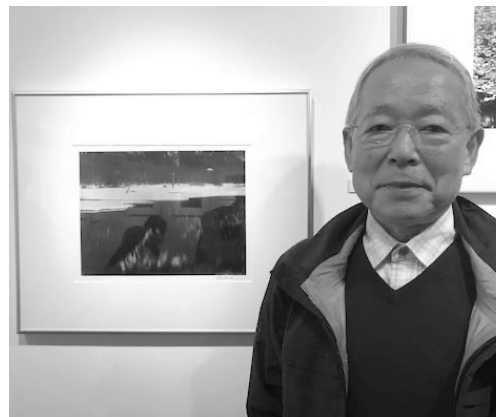
村岡純一さん



石井政吉さん



鈴木知之さん



大内 元さん



小菅秀一さん



鈴木武志さん



白井健司さん



川北 弘さん



畑 文夫さん



浜野次郎さん



第26回写真展への出展にあたり

中井陽一郎

もう10年ほど前のことですが、私はアンセル・アダムスのビンテージプリントを間近に見て、「写真はこんなにも美しい光をうつしとめることができるのか」と強い衝撃を受けました。

以来、自分もこのような光を手中に納めてみたいとの大それた望みを持ち、中古の4×5カメラを衝動買いし、撮影・現像・プリントに挑戦してみたものの、想いとは似ても似つかない印画紙の山を築くだけの結果となりました。

思い余って、以前からHPで活動を拝見していた「ゾーンシステム研究会」の扉をたたき、会員の一人に加えていただいた次第です。

しかし、その当時はコロナ禍の最中にあり研究会の例会に参加することもままならず、いただいた「ゾーンシステム標準技法テキスト（2013）」を繰り返し読みながら、自分なりにフィルムの実用感度の把握や標準現像時間の設定に取り組んでいるうちに、ほぼ1年が過ぎ去ってしまいました。ようやく昨年（2022年）の7月に、念願であった「ゾーンシステムワークショップ（於：アルジャン）」に参加させていただきましたが、テキストを読んで理解したつもりになっていたことと、ワークショップで実際に自分の手を動かしてできることとの違い（例えば、フィルムの実用感度を求めるためグレーカードを撮影する際に、照明ムラを抑え込むことができていなかった等）に、気付かされることになりました。

このワークショップで撮影指導を受けた写真のうち1枚を、第26回写真展に出展させていただけることになりましたが、私の稚拙なプリント技術では心もとないため、9月に開催された「暗室ワークショップ（於：アルジャン）」に参加させていただきました。このワークショップでは、プリントの再現性を確実にするため、結果に裏付けされた手順を正確に繰り返すこと（例えば、プリント全体の露光時間の中で、覆い焼き・焼き込みをする時間配分の考え方、数値として記録に残す等）の大切さを学ばせていただくことができました。

私にとってゾーンシステム研究会の写真展のような本格的な作品展への出展は初めての経験でしたが、中島先生をはじめ、多くの方々のご指導のおかげで、ようやく作品としてのプリントを仕上げることができました。

今後は、「あの光をうつしとめる」という私にとっての高みの目標を目指して1枚でも多くの写真を撮り、独り立ちできるよう努力を重ねたいと考えています。

（なかい・よういちろう）

ゾーンシステムとの出会い

村岡純一

2022年よりゾーンシステム研究会に参加しました村岡です。

ゾーンシステムとの出会いは2000年に中島先生が講師をされていた川崎市市民ミュージアムのゾーンシステムワークショップに参加からです。そのワークショップはスポットメーターの使い方から、フィル実用感度のテスト、中判カメラでの撮影、現像、プリント、市民ミュージアムでの展示まで通して実践する本格的な講習でした。その後、写真活動は休止しておりましたが、還暦を過ぎるにあたり、かねてより写真展をやりたいと思っており、銀塩プリントを含め、写真活動を再開いたしました。とある日、母から一枚のプリントを渡されました。遙か昔、わたくしの高校時代に4高校合同写真展のメンバーに撮ってもらったものです。4x5のポジとネガのセットで、ポラロイドだと思われる。これまで4x5はプリントしたことがなかったのですが、写真展のプリントの合間にテストプリントしてみました。ピントルーペのぞいた時、粒子の大きさが細かくシャープであることに驚き、それでいてなめらかなトーンや大判レンズの自然なパースに魅了されました。

その後、毎年いただいていたゾーンシステム研究会写真展案内葉書が目にとまり、写真展に足を運び、入会に至りました。2022年第26回写真展には、初めて参加させて頂きました。研究会のグループ展が途切れることなく26回継続されていることは、中島先生とメン

バーの熱意の賜物と思います。銀塩プリントの魅力発信の場として、また情報交換の場としても、大変貴重であると思います。

毎月の例会では他のメンバーのプリントを見る機会があり、先生のコメントも含め、大変参考になります。いろいろなプリントをみることで、自分の見方も変わって来たと思います。なるべく多くのオリジナルファインプリントを見たいと思うようになりました。

昨今、銀塩プリントの取り巻く環境は厳しくなっております。フィルム、印画紙、薬品の種類も限られてきているなか、先生、メンバーの知識と情報はまことに貴重であると思います。諸先輩のお力をお借りして、よりよい銀塩プリントを制作できれば幸いです。今後ともどうかよろしく願いいたします。

(むらおか・じゅんいち)

私の写真について

小菅秀一

会報記事の依頼を編集担当よりいただき、はたして何を書こうかと悩んだのですが、この機会にこれまで写真について自分なりに考えてきた思いを確認するのも有益ではと筆をとりました。それらと合わせて、思い出深い自作について解説させていただきます。

1. プリント

プリントテクニックにより被写体の魅力を最大限に高める。

- ①見る人が引き込まれ、長く眺めていたいプリント。
- ②端正な写真が理想。被写体の姿そのものと画面全体が整然とし、光のまわり方が美しいプリント。

2. 心得

- ①写されるもの。その魅力を感じとり、その何かを掴み取る。
- ②さまざまな出会いの中、目を凝らし、心に響いたものだけ写し取る。
- ③よく見、視点を変え、真の姿を見つける。

3. 目指すプリント

- ①人の情感を呼び起こし、微妙な美しさ（光、形、瑞々しさ）を表現した写真。
- ②清楚で温かみのある写真。

画面全体が研ぎ澄まされ、冷たい感触に包まれているモノクロームプリント。対象物を造形的に捉え、冷徹に表現されたプリントは理想だ。

また、柔かい光がまわり、湿った温かみのあるプリントも魅力的である。

- ③日本特有の湿潤で、優雅さが醸し出されている写真。（「言うは易く行うは難し」を取えて、）

4. 何故撮るか

こころときめく風景、魅力を感じた何かに出会うため、森林や海岸、湖沼、建築物などあらゆる被写体を探し求めることが、何よりも楽しいし面白い。

- ①その光景に浸っていたい気持ちになる時。
- ②ファインダー越しに見た風景に感動を覚える時。そこには自分以外誰もいない。その孤独なときこそ本当の充実感が味わえるのではと思う。写真を撮り、現像とプリント作業、そして出来上がったプリントを自分だけ鑑賞することが喜びなのだと思う。（自分の作品について深く考えると、人に見せることも写真展もなく、その作品を眺め味わうことが最高、最上なのだと思いつくづく思う。）

5. 撮影

①撮影の手順

風景撮影の場合など光のまわり方や風の影響で、目の前の光景が思い描いていたイメージが変化することがある。それを避けるために、なるべく早く撮りたいと思うもので、急いでカメラを組み立て、適合するレンズを装着し、「あおり」と「ピント」を調整する。（勝手に焦り、ぎこちない操作を行っている姿を想像すると我ながら可笑しく思う。もう老齢の域に達して、落ち着き払えと言いつつ聞かせても、自分のこの性分は修正できない。「他人にこんな姿は見られたくないな、誰もいないのは何よりありがたいものだ。」と胸のなかでつぶやく。）

それから、被写体の状態が変わっていないか

どうかファインダーの画像を確認後、フィルムホルダーを装着する。

シャッターを切る前に、レンズを通しての画像と実際に見える範囲をチェックする。余分なものが写っていないか、画像周辺の状況のチェックは欠かせない。たまに、木の枝や草など邪魔者が入ったりしている。その時は、手で押さえたりしながら映り込まないように工夫する。

ここでやっとシャッターを切る動作に入る。風や雲の状況によっては撮影チャンスが来るまでじっと待つ。

(シャッターを切るまでは引き蓋はすでに引かれている状態なので、カメラは冠布を被せている。光線漏れがなにより心配なのだ。)

同じ場面を2枚連続で撮る。フィルムの無駄使いとも思えるが、撮影機会は次はないことを考えると当然のことだ。これで救われたネガも何枚かあるので、決して無駄ではないのだろう。

「この1枚で決定。」のときもたまにある。

②撮影対象と時間帯

撮影対象は、風景、建築物、静物など。たまにポートレートなども撮りたいと思う。

撮影の時間は通常、早朝が多い。季節は夏以外の季節。それも日の出前から撮影のスタートだ。晩秋から冬に入る時期だったら、6時前から撮影準備に入る。

薄明りから早朝の繊細な光に包まれる、6時頃から7時までは私にとって特に貴重な時間だ。特に、湿原や湖沼での撮影では、朝の澄んだ空気、湿った地表や水面の静けさ、朝露に濡れた植物などその瑞々しい姿は格別に見える。

第一段階の撮影は、6時から8時過ぎまで。

この段階で、その日の天候や風の状態、雲の動きなどを想定しながら撮影スケジュールを決める。この時点でのフィルムは4×5で4-5カットフィルムは10枚前後消費。状況によって第一段

階で撮影終了のことも多々ある。

最近の被写体は近接撮影、中距離の被写体を主題にしたものが主だ。壮大な風景は余り狙うことはない。画面にインパクトがなく、狙いが漫然として見えてしまうからだ。

第二段階撮影は特に時間を設定してはいるが、9時から11時頃までが目安だ。

晴天でも曇天でもあらゆる被写体（近接から遠景迄）を方々探し求めひたすら歩く。ある意味、次回撮影のロケハンを兼ねている部分もある。

この第二段階は、せいぜい1~2カット2枚から4枚のフィルム消費で終わる場合が多い。余録的な撮影でもあり、鮮明な風景や光が強いネガなど魅力的な作品を生み出すこともあるが、それは稀だ。この時間帯は光が強く平板なのであまり好みではない。

ほぼ、これで1日の撮影を終える。

第三段階の夕方は殆ど撮らない。光線状態だけ考えると撮影チャンスだが、どうも早朝とは違い全てにおいて瑞々しさが欠けている。すべてに空気感も被写体も乾いて疲れているように見えるのである。人も自然も同じだと思う。

一日の撮影を終えた頃は、体力・気力ともに虚ろな状態である。

期待が持てる撮影であれば、次のフィルム現像と出来上がりのプリントに思いを巡らせている。その帰りは何より楽しい道程だ。

思い出のプリント（6点）

1.教会

No.1004 （田平天主堂）



No.1005（ステンドグラス）



ネガNo.	撮影地	フィルム	レンズ	シャッター スピード	絞り	フィルム 現像液
1004	長崎県平戸市	TMX	72mm	30秒	F22	D-76
1005	長崎県平戸市	TMX	150mm	1分	F22	D-76

◆作品解説

・No.1004 （田平天主堂） No.1005（ステンドグラス）

- ① 田平天主堂は、長崎県平戸市あるカトリック教会。美しい海が見える丘に建っている。
1918年建立で数々の教会堂建築に携わった鉄川与助の設計及び施工により建立され、構造は木造レンガ造り。2007年の撮影だが、10月に再プリント（11×14）。
- ② その日は雨の日、教会内部は昼でも薄暗く、絞りはF22 スピードは30秒と1分。
滑りやすい床面のためカメラブレは細心の注意を払ったことが思い出される。
- ③ 今でも、この2枚は思い出深い大切なプリントである。（現在は教会内部は撮影禁止。）
この教会内部と祭壇、ステンドグラスなど日本独自の教会建築の優れた意匠が魅力でした。（当時、教会の司祭が快く三脚使用を許していただいたことは今でも感謝申し上げたい。）
この教会内は何かを漂わせている雰囲気があった。古い木造建築と花とかの香りが漂い、祭壇天井、身廊、ステンドグラス等は清潔でよく磨かれていた。特に、プリント上でも天井や柱頭の輝き際立っていた。

2.水辺

No.2433 (雪解)



No.2280 (水蓮)



ネガNo.	撮影地	フィルム	レンズ	シャッター スピード	絞り	フィルム 現像液
2433	福島県観音沼	FP4	125mm	1/2秒	F45	Pyrocat HD
2280	福島県矢の原沼	DELTA100	450mm	1/2秒	F22	PERCEPTOL

◆作品解説

・No.2433 (雪解)

- ① 撮影地は福島県観音沼脇の湿地。融雪と雨天の次の日が功を奏し、絵になる「沼地とその木立」に出会えた。
- ② 撮影日は今年6月1日。雨の日が続いた薄曇りの日をねらい、全ての木々にピントを合わせるためレンズ面でのスイングと絞りF45で撮影。スピードは1/2秒。
- ③ 水面の淡い濃淡と木々の姿、特に風雪に耐えた幹の質感描写を重点の撮影。プリントは下部水面のグラデーション (ZoneVI ~ VIII) と幹の質感を表現できるよう撮影に細心の注意を払った。

・No.2280 (水蓮)

- ① 撮影地は福島県矢の原沼。
- ② 撮影日は2019年6月25日、梅雨時期の晴日、水蓮が花咲き始めた頃。
レンズは450mmの長玉、通常のタチハラではなくビューカメラでの撮影。絞りF45 スピードは1/2秒。
- ③ 木立の影や直射日光を受けて浮かんでいる姿や咲き始めた水蓮の花のワンポイントも魅力的だった。

3.海景

No.1800 海景（野島崎）



No.2319 海景（磯浜）



ネガNo.	撮影地	フィルム	レンズ	シャッター スピード	絞り	フィルム 現像液
1800	千葉県野島崎	TMX	90mm	2分	F45	D-76
2319	茨城県大洗町	FP4	125mm	4分	F16	Pyrocat HD

◆作品解説

・No.1800 海景（野島崎）

- ① 撮影地は野島崎灯台から東側へ行ったところ。早朝の海岸と雲の多い空を撮影。
- ② 撮影日は数年前の10月中旬 6時頃。夜明けと共に撮影を始めたが、少し日が昇り始めたときを狙った。絞りはF45 スピードは2分。
- ③ 夜明けと共にわずかな日光を浴びた海岸と古い栈橋。わずかな波と雲の流れは長時間露光のため仕上がったプリントは少し幻想的だった。

・No.1005 海景（磯浜）

- ① 撮影地は自宅からほど近い大洗海岸。夜明け前の「磯浜灯柱」を撮影。
- ② 撮影日は昨年3月8日夜明け。絞りはF16 スピードは4分。
- ③ この「磯浜灯柱」はお馴染みのもので何度も撮影を試みていた。この撮影は、少し静かな波と流れる雲の形状が美しかった。これも前述同様、長時間露光による撮影。特に、灯柱とその岩場と波、遠くまで見通せる海面と雲の様が見事だった。
時折の雨と風の強く少し荒れ気味の天候が幸いし、波と雲の美しさを際立たせてくれたようだ。

以上、「私の写真について」の独りよがりの思いと「思い出のプリント」を長々と書き連ねてまいりました。今回、皆様に少しでも何かご参考頂ければ幸甚に存じます。(こすげ・しゅういち)

APEX SYSTEM について

畑 文夫

APEX SYSTEMときいても、あまりなじみがな
いかもかもしれません。これは1960年代に工夫された、
写真の露出を決める便利な方法なのですが、すく
なくとも表面的にはあまり一般的にはならなかつ
たようです。ウィキペディアなどで調べても、小難
しい数式が出てきてあまりフレンドリーには感じ
られません。しかし合理的に考えられたシステムな
ので、フィルムからデジタルに変わった現在でも、
カメラの中のコンピューターはこの方法で露出を計
算しているそうです。

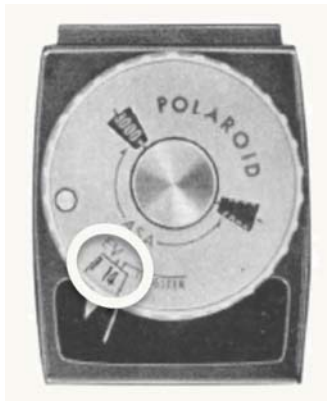


図1 ポラロイド露出計

私がこの方式を
知ったのは、父
親が使っていた
ポラロイド120
カメラの露出計
がきっかけでし
た。極めてシン
プルな作りで、フ
ィルム感度を設
定して被写体に向け、追針をメーターに合わせると
EV(Exposure Value 露出値)だけが読み取れます
(図1)。その値(たとえばEV14)をカメラのEVリング
(図2)にセットすると、絞りとシャッターが連動し
ます。あとはEVリングを回して絞りやシャッター
を望みの値に変えるのです。EV14ならf11 1/125
秒やf16 1/60秒など、一定の露出のままになるの
で便利でした。つまり「露出計はフィルムの感度と
被写体の明るさで決まるEVを教えるから、絞りと
シャッターはカメラで決めてください。」というわけ
です。

さて同じころ、やはり父親が使っていたアサヒ



図2 ポラロイドカメラのEVリング

ペンタックスを自分が使う機会が増えてきました。
(というより、勝手に持ち出していたのですが...)

ペンタックスには「EVリング」に相当するもの
がなく、この露出計は使えないはずですが、カメ
ラ雑誌の記事に面白いヒントが載っていました。
それは「レンズの絞り環のfナンバーの代わりに
『AV(Aperture Value 開口値)目盛り』を貼り、
カメラのダイヤルのシャッター速度の代わりにTV
(Time Value 速度値)目盛りを貼れば、EVだけで
露出を決められる」というものでした。さっそく
紙に描いた目盛りをレンズとカメラに貼り付けて
みると(図3)、便利に使えます。例えば、露出計で



図3 絞り環にAV目盛りを
シャッターダイヤルにTV目盛りを貼る

EV14と読み取れば、AV9+TV5でも、AV6+TV8でもよいことがすぐにわかります。従来の目盛りでは、f22 1/30秒が適正の場合、絞りをf8にしたら何秒にすればよいか?とっさの暗算はすこし手間取るでしょう。APEX SYSTEMという言葉は、Additive system of Photographic Exposure の意味で、露出の計算が足し算でできるように工夫したものです。この方式に慣れると、「晴天屋外、フィルム感度が100ならEVは約14になる」という勘もはたらきやすくなります。

このように便利なシステムでしたが、露出計内蔵や自動露出カメラが主流となり、単体露出計を使う機会が減るとともに忘れ去られていったようです。

以上はEVを読み取ってカメラの絞りとシャッターを決めるという側面ですが、露出計がEVを決めるには被写体の明るさ(輝度)とフィルム感度の情報が必要です。APEX SYSTEMはこれも工夫しています。

フィルム感度表示はASA(現在はISO)規格が一般的ですが 25、50、100、200、400・・・のように感度が倍になる毎に数値も倍になります。これを足し算で計算できるようにSV (Speed Value 感度値)にします。ISO100はSV5、ISO200はSV6・・・のように、感度が倍になるとSVは+1増えます。

また被写体の輝度(単位はcd/m²など)はBV (Brightness Value輝度値)にします。輝度が倍になると、BVも+1増えるように決めてあります。

以上をまとめると、次表のようになります。カメラや露出計、フィルムの表示がすべてこのシステム(各表の下段)で表してあれば、露出の計算はずいぶんと楽になったでしょう。

露出計の表示 SV+BV=EV

ISO	3	6	12	25	50	100	200	400	800
SV	0	1	2	3	4	5	6	7	8

表1 ISO感度とSVの対応

cd/m ²	3	7	14	27	55	109	219	439	877
BV	0	1	2	3	4	5	6	7	8

表2 被写体輝度(cd/m²)とBVの対応

カメラの設定 EV=AV+TV

f 値	1	1.4	2	2.8	4	5.6	8	11	16
AV	0	1	2	3	4	5	6	7	8

表3 f値とAVの対応

1/秒	1	2	4	8	15	30	60	125	250
TV	0	1	2	3	4	5	6	7	8

表4 シャッター速度とTVの対応

蛇足

その1 表2の輝度とBVの換算には、微妙に異なる範囲の校正係数が許容されています。そのため同じ被写体でもメーカーによってわずかに異なる露出になることがあります。N社のカメラはすこし暗めの露出となり、C社では明るめになるので「報道のN、芸術のC」などといわれたこともありました。

その2 ペンタックス・スポットメーターがファインダーに表示する数字は「EV」ではなく、「ISO100の場合のEV」です。こんなこともあつてか「EVはISO100が基準」あるいは「EV=AV+TV-ISO値」などという珍説を説明しているサイトもあるので注意してください。(はた・ふみお)

ミニワークショップに 参加してみて

若子敏規

ゾーンシステム研究会の会則では、会員は中島先生のゾーンシステム講習会を受講する必要があるとされています。

私は30年前に川崎市民ミュージアムのゾーンシステム講座に中判カメラで参加したことがあります。

一応会則の条件は満たしていますが、ブランクが長くペーパードライバー状態なので中島先生のミニワークショップに参加しました。

今回は1年ほど前から自己流で始めた大判カメラで参加しました。2日間で集中的に実践的なプロの技を教えていただいたので、とても有益でした。

新規会員の方でこれから、ミニワークショップに参加される方もいるとおもいますので、注意事項を共有させていただきます。

※一例なので、受講者の機材やスキル等に応じて内容が変更される場合もあるとおもいます。



1. スケジュール

1日目 AM10:00集合、座学+感度決定のための撮影(室内)+フィルム現像、昼食(先生の車で外食)、PM現像時間決定のための撮影(室内)+フィルム現像、17:00解散。

2日目 AM10:00集合、野外撮影(先生の車で移動)、昼食(先生の車で外食)、PMフィルム現像+プリント、18:00解散。

2. 場所

中島先生の暗室(川崎市麻生区)※駅から徒歩で行けます。野外撮影は近隣(先生の車で移動)。



3. 持ち物

・中判カメラor大判カメラ+レンズ ☆必須☆

私は大判4x5を使用しました。カメラのレンズは135mmをつかったが、感度決定、現像時間決定の撮影で、かなり近づく必要があった。また、フィルムの実効感度が50だったので、照明(500Wフラッドランプ)がかなり近めになりました。ぎりぎり影にならずOKでしたが、レンズはもう少し長め(150mm)でフィルム感度も公称400くらいのものが撮影は楽かもしれません。

・三脚 ☆必須☆

野外撮影で三脚は目の高さで使うよう指導されました。三脚が複数あるならこれくらいの高さの三脚を選ぶべきかとおもいます。

・スポットメーター ☆必須☆ ★注意★

電池切れ・不足に注意。(電池不足だと測定値に影響あり、感度決定がうまくいかず、原因追求に時間をロスした。新品電池にしておいたほうがいい。)

・撮影小物 ☆必須☆

撮影はf32以上に絞り込み長時間露光になるためケールリリーズは必須です。大判はピントルーペ、水

準器、被りも必要です。(大判やる人は持っているかとおもいますが)

絞ってシャープに撮ること、カメラの水平を保つことを繰り返し指導されました。

・モノクロ用フィルター(黄色や橙色)

野外撮影ではモノクロ用フィルタの使い方も指導いただきました。持っている人はもっていったほうがいいのかとおもいます。

・フィルムホルダー ☆大判カメラの場合は必須☆

6個もってきましたが、野外撮影は10枚だったので、なんと足りませんでした。時間削減のため、前日、1日目の夜にフィルムホルダーにフィルムを詰めていきましたが正解でした。

・ダークバック

また、現像タンクにフィルムを入れる作業はダークバックでやったほうが、先生がその間に暗室準備できるので、時間的に有利だとおもいました。(ダークバックでのフィルム入れに手間取っては意味がないので、なれているダークバックをもっていきました)

・シャッタースピードテスター

テスターがない人は、あらかじめカメラのシャッター精度の点検依頼をしておくベスト。自前テスターを持っていたが、故障しており役に立たず。先生のテスターを借り急場をしのいだ。(感度決定がうまくいかない原因はシャッタースピードではなかった)

・フィルム濃度計

先日コンパクトな濃度計を買ったので実戦使用しました。ネガ濃度がデジタルでわかるので納得感がありました。先生も持っているため、持参する必要はないです。

・8X10のバライタ印画紙 ☆必須☆ ★重要★

中島先生の暗室のセーフライトにあわせて、イルフォードかオリエントルの印画紙が必要。(以下の印画紙は赤色セーフライトが必要なNGのもの)

NG例:シルバークロームフレックスグレードFBペーパー、ARISTA EDUULTRA FB VCGL(アリストバライタ印画紙 多階調 光沢)、FOMAの印画紙、ローライの印画紙

印画紙の枚数は8枚程度使いました。(3シーン*2枚、テスト用2枚)

・濡れた印画紙を持ち帰る袋(印画紙を乾燥する時間がないため必要)☆必須☆

私はダイソーで売っているチャック付きのA3用紙ポリ袋(3枚組)※100円に印画紙をいれて、それを8x10の紙のパッケージにダンボール紙をつめたもの入れ、折れないようにして持ち帰りました。

・フィルム ☆必須☆

公称感度200の4x5フィルムを16枚つかいました。低感度のフィルムは感度決定の撮影で使いにくいです。

[内訳]感度決定で3枚(2回失敗した)、現像時間決定で3枚、野外撮影で5シーン*2カット

・ネガケース ☆必須☆

ネガケースを入れるファイルも必要かとおもいます。

・現像タンク

フィルム現像は持ち込んだパターソンタンク+MOD54リールで実施しました。

先生のお宅にもありますが、なれているタンクのほうがスムーズに進められるため、持ち込んだほうがベターかも?

4. 感度決定、現像時間決定のための撮影・現像について

・感度決定の撮影は、丸穴があいた黒紙をつかって1枚のシートフィルムに4種類の露光時間で多重露光する方法を使いました。

自分のカメラではピントグラスを外して撮影するしかなかったのですが、きっちり固定できるかつ引き蓋の出し入れがスムーズにできるホルダーをつかったほうがいいです。(私は引き蓋の出し入れに

失敗して、光線引きしてしまいました。引き蓋の操作の仕方も教えていただきました。)

・フィルム現像は感度決定で2回、現像時間決定で1回(暗室で現像途中でフィルムを2回取り出し3パターンの現像時間のネガを作りました)

野外撮影で現像時間を変えて2回現像しました。



5. プリント

時間の関係でコンタクトプリンティングタイムの測定は省略となりました。号数は2号固定で実施しました。

3シーンのネガについて、段階露光で露光時間を見つけ1枚、ハイライトを多少焼き込んで1枚と、2枚ずつプリントしました。

テスト焼き用の小片は、8x10 2枚をはさみで田の字に4つに切って8枚つくりました。

6. 所感

小物が多く、無駄に100枚入り印画紙の箱を持参したため、50Lクラスのラムダのザックに5Kg超の三脚を固定という山岳撮影か?という格好になり、肩がいたくなりました(笑)。

～以上～

(わかこ・としのり)

ゾーンシステム確認講座に参加して

岩田伸一

6月7、8日の二日間で中島先生のご自宅に伺いワークショップ確認講座を受講させていただきました。

二日間という短い時間でしたが「ゾーンシステムとは何か」から始まり実技などを経ていろいろなことを学びました。そして二日目の屋外での撮影では、先生に教えていただいたゾーンⅢ、Ⅳを意識しながら撮影したこともあり綺麗な濃度のネガを作成することができ、そのあとのプリント作業もスムーズに進めることができました。残念ながら覆い焼きについては先生に手助けをしていただきました。今後の課題の一つです。

これまで独学で写真処理を行ってきた自分にとっては初の写真講習で緊張しましたが、先生の丁寧なご指導でなんとか終了できました。モノクロ写真はフィルム現像の成否が重要であることを改めて認識し、これでフィルム現像における濃淡のばらつきは今回の講習で少しは改善できることと思います。今後も今回教わったゾーンシステムを意識しながらの写真撮影を心掛けたいと思います。

中島先生には二日間にわたりマンツーマンでのご指導していただきありがとうございます。

(いわた・しんいち)



2023年2月からの活動記録

2月総会 (11日)

- ・今年の写真展は自由テーマとし、来年の写真展のテーマを「都市」「都市の魅力」とする予定。
- ・過去の会報を公開してほしいとの要望があり、ホームページに掲載した。
- ・プレゼンテーション 「濃度計新製品の紹介」(若子氏)

3月例会 (11日)

- ・「ポートフォリオII」が工芸大(写大ギャラリー)に收藏してもらえることになった。
- ・手持ち4×5カメラは希望する会員に貸出すことにする。
- ・会員が研究成果などを例会でプレゼンする「ミニレクチャー」を開始。第一回は「建築写真の名作」(浜野氏)



4月例会 (8日)

- ・ミニレクチャー「スポットメーターによるネガ濃度の測定」。(白井氏)
- ・ミノルタスポットメーター用ゾーンダイヤルを3Dプリンターで製作した。(若子氏)
- ・シビックセンター地下アトリエの暗室設備を有志でテストした。

引伸し機にガタつきや光線漏れはあるが、講習などには使えそう。ネガキャリア、レンズは35mm用だけなので、ブローニー用にガラスキャリア等を持参する必

要あり。また誘導灯によるカブリが出るので、暗室としての使用に当たっては遮光する必要がある。



5月例会 (13日)

- ・写真展会場がシリウスに決定した。
- ・ミニレクチャー「メトロノームを使う焼き込み、覆い焼き」。(畑氏)

6月3～8日

新入会員を対象にミニワークショップを実施。

6月例会 (10日)

- ・ミニレクチャー「現像液調合の実演」。(小菅氏)



- ・イェルフォード、オリエンタル製品の共同購入は、浜野氏を取りまとめ役として試みに注文する。
- ・例会後、有志で古谷津純一写真展を見学。(ギャラリー冬青)

7月例会 (8日)

- ・シリウスプレゼン用の写真を中島代表が講評。
- ・ミニレクチャー「印画紙ドライダウンの確認方法」。(畑氏)

- ・例会後に写大ギャラリー「形あるもの、形なきもの」を見学。(中島代表の作品も展示、収蔵庫も見学)



8月例会 (12日)

- ・ギャラリーE&Mでの個展について(鈴木知之氏)粗粒子でも美しいトーンを出すように試みた。1週間で40枚をプリントしたが、大変厳しかった。
- ・例会後、有志でPhotographic Art Asia 2023 写真展(半蔵門 JCII)を見学した。

9月例会 (9日)

- ・ミニレクチャー「フラッシング(前露光)」(大内氏)
- ・例会後(18時~21時)に地下1階アトリエでライティングの説明と静物撮影会実施。

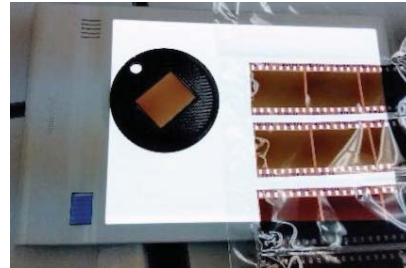


9月17日

- ・暗室ワーク(龍ヶ崎 アルジャンにて)参加
石井康、白井、塚田、若子、鈴木武志(5名)

10月例会 (14日)

- ・DMの印刷が完成。投函は11月中旬とする。
- ・ビューイングフィルターの代替品を紹介。ラッテン#90フィルターはきわめて高価なので、カラーネガフィルムを露光したもので代用、枠は3Dプリンターで加工する。(若子氏)



11月例会 (11日)

- ・展覧会DMのシール貼りを行う。
- ・マットの製作について解説と実演。(鈴木武志氏)



11月特別例会(25日)

- ・額装チェック

12月6日

- ・展覧会場に搬入

12月7日-13日

- ・第27回展覧会
(於 アイデムフォトギャラリー シリウス)

[表紙の作品]

作 者 : 畑 文夫
タイトル : Winter tree
フィルム : ACROS
フォーマット : 4×5
絞 り : f 64
レ ン ズ : 210mm
シャッター
スピード : 2 sec.